

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時職員研修の中で「地域の中で利用者本位・利用者中心でその人らしさを大事にした支援」と言う意識の統一の下、これまで支援してきたが職員全員での理念作りに取り組み作り上げてはいない。	○ 開所から一年が経ち職員も利用者本位・利用者中心の支援ということの意義を肌で感じるものが少しずつ出来てきたように思われるので、職員全員で認知症になっても地域のなかでその人らしく生活できることの継続が出来るよう、理念作りに取り組んでいきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には必ず研修を行い基本理念を伝えているが、カンファレンスやミーティング時に振り返りの中で確認するのみに留まっている。	○ 管理者・職員と一緒に理念作りを実施することを機会に日々の取り組みも行っていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族へは来所時等を利用しその都度個別に話しをさせてもらう機会はある。地区の民生委員の会報発行時にスペースを頂きホームの紹介を兼ね基本理念を掲載させて頂いたことはあるが、まだまだ地域の皆さんに理解して頂けるような取り組みはできていない。	○ 地区の活動の中に勉強会として参加させてもらえるよう積極的に声をかけたり、ホームからの新聞等を発行するなどを通して理解して頂けるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの行事にチラシを配る等をし参加して頂くよう利用者と共にしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校との交流や自治会の行事に参加するよう努めている。特に小学校との交流は継続的にしている。	

グループホームあさかわ・てっせんユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	開所よりまだ日が浅くまだまだ利用者への日常支援で精一杯の状況である為職員が取り組むところまではいかない。管理者は相談等に見えた際認知症に対する知識や対応についていつでも応じる旨話しをさせてもらっている。	○	地域住民を対象とした認知症ケアやサポートの啓発のため研修や会合・勉強会等に関わっていきたい。又実習生の受け入れは積極的に行っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての実施の為職員が意義の理解をしこれまでの自らのケアの振り返りとし気づきの機会に留まっている。	○	外部評価の結果をミーティング等で報告し、改善すべき点は改善に向け具体的な計画を作成し取り組みサービスの質の向上に努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	自治会、地域包括センター、家族の代表、利用者からの意見や希望などを直接聞きサービス提供や日頃の評価の参考にしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議以外の行き来の機会は積極的に設けていない。	○	忙しく参加してもらえないという同業者からの情報から、運営推進委員会への参加以来も市町村担当者の方への声かけは行っていなかったが、担当者の方より参加できる旨連絡あり今後は行き来する機会を設けサービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	長野圏域グループホームネットワーク会議等で学ぶ機会を持つことが出来ている。発生時には関係者と話し合い支援できる体制づくりは出来ている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常支援の中で当然あってはならない事とし開所前の研修では職員に周知したが改めて高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をもっていなかった。	○	開所より丁度一年が経ち職員も慣れたことにより無意識に言葉による虐待的な要素を含んだ対応も見られるところと思われる為早急に対応し定期的に取り組んでいきたい。

グループホームあさかわ・てっせんユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には書面を以って説明を行い不安や疑問には丁寧に対応し、理解や納得をして頂いている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は利用者からの申し出にはもちろんいつでも相談にのれる体制をとっている。また定期的に安心相談員の受け入れを実施し利用者の話を聴く機会を設けている。後出された意見等は管理者へ報告してもらい改善すべき点は職員間で話し合いの場を設け運営に反映させている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>特に利用者の健康状態の変化については、管理者やリーダーを通してその都度連絡している。暮らしぶりについては面会時や遠方にてなかなか来所出来ない家族へは頼りや電話にて報告している。金銭管理については、入金時に出納帳にて確認をして頂いている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会の立ち上げはまだ実施出来ていないが家族の訪問時には利用者の様子などを話す等コミュニケーションを取るよう心掛け、不満・苦情等を話しやすい関係作りに努めている。</p>	<p>○ 家族会の発足等に取り組み定期的に意見等を聞き運営に反映させていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に2回のミーティング時に運営者、経理担当者等全員参加し職員の意見、要望を聞くよう心掛けている。又利用者の受け入れや職員交代の際は各リーダー等の意見を聞くなど相談しながら行っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者は状況に応じた対応が出来るように通常のシフトに入れていない為夜間や早朝の対応や利用者の状態変化に応じた柔軟な体制が取れている。又常時、必要時対応してくれるパート職員の確保もできている。</p>	

グループホームあさかわ・てっせんユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	相互訪問については、職員のレベルアップにつなげ更には、サービスの質の向上に繋げていく為にも検討のみに留まらず是非実現に向け取り組んでいきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

グループホームあさかわ・てっせんユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自宅へ訪問し直接本人と会い不安なこと困っていること、求めている事などを聴く機会を作り受け止めるよう努めている。状況によってはホームの方へ来て頂きホームの様子などを見て頂く機会も設けている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自宅への訪問やホームの方へ来所時に困っている状況、不安なこと求めていることなどの相談にのれるよう努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点でグループホームへの入居希望であることが多いが、状況により家族の実情や本人の意向を聞き又、ケアマネージャー等からも十分な情報を得るなどをし安易に入居を決めず、他のサービス利用にての対応も考慮に入れた対応に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り入居前には家族の方とホームの方へ見学に来て頂き職員や入居している利用者と一緒にお茶を飲んだりと短時間でもホームで過して頂くなどをしホームの雰囲気を見て頂いている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の中で生きがいとしていることを知りそれが行えるよう支援したり又教えてもらう場面作りや声かけを行っている。	

グループホームあさかわ・てっせんユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来所の折には出来るだけコミュニケーションを図り本人の状況を伝え情報の共有をすることで家族との繋がりが密になるよう心掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期受診時の付き添いや行事の際には参加の呼びかけをし家族と過せる時間を作っている。	○	定期的なホーム新聞の発行などを利用しホームでの様子を伝えていくとくみも実施したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来所時など、ゆっくり気兼ねなく話しが出来る場を提供し歓迎の意を伝えている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶、食事の時間などスタッフが必ずかわり、会話の中から利用者同士の関係をさぐり必要に応じ働きかけをしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	開所してまだ一年が経ったところであり現在退去者もおらず退去後のつきあいは行っていない。	○	今後退去と言うようなことがあればそれで終わりとはせず継続的な関わりを必要とする利用者や家族には関係を断ち切らない付き合いを大切にしていきたい。

グループホームあさかわ・てっせんユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から思いや暮らし方の希望や意向を把握できる様努めている。色々な場面の中からも感じ取れたものや真意を推し測るなど本人の意向を重視する様努めている。	○	常に職員は自分ではなくあくまでも利用者の思いを意識出来るようミーティング等を利用し職員の向上を図っていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報によりこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、入居までの把握に努めている。	○	入居時には得られなかった情報などは、本人との会話や、ホームへ訪ねて来る本人の関係者等からも情報を得、本人への理解に努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日の本人の心身の状態を観察しながら、出来ることを引き出し行動や話から本人の全体像を把握出来るよう努めている。	○	有する能力の引き出しや維持に努めているが、無理強いすることなく自ら参加したいとおもえるような支援が出来るよう取組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見を聞いた上で、カンファレンスを行い介護計画に活かせるよう努めている。	○	開所から一年が経過するが日々の忙しさからカンファレンスはするものの、思うようにプランの作成が出来ていないのが現状である。作成者の反省として介護保険事業所であることを意識し、計画書の作成をしプランに沿った支援をしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の心身の状態変化により本人や家族、必要に応じて医療関係者等と相談をし見直し行っている。		

グループホームあさかわ・てっせんユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過記録に24時間体制で日々の様子やケアの実践・結果気付き、本人の言葉等の記録を個別にし職員間の情報の共有や実践、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的に定期的な受診は家族にお願いしているが、本人や家族の状況に応じ通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。また利用者に入院発生があった場合は、本人の状況を踏まえ家族との連絡を密にし早期退院に向けての支援も行っている。	○	ショートステイの受け入れを考慮し、事業所としては、開所から2年の経過が必要であるが経過後に備え管理者が必要な研修の受講も済ませており地域のために役立てたいと考えている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に地区の民生委員に参加してもらっており地域の中での暮らしが継続できるよう意見交換や相談をさせてもらっている。警察への協力は開所時に依頼したままであり普段の関係も薄く連携を取っていないとはいえない。	○	一年の経過の状況から、今後予測できる事への対応の為に地域資源と協働し支援することの大切さを感じているので、取組んでいきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向に添い地域で行われている公民館活動への参加を試みている。諸事情によりまだ実現出来ていないが、引き続き支援していきたい。訪問理美容サービス等については、利用者の現状ではまだサービスを利用する段階ではない為支援には至っていない。	○	今後利用者の状況変化等によりサービスの必要性が発生してくれば利用の支援をしていきたい。地域にどんなサービスがあるのかまだ把握出来ていないのが現状であり今後のためにも把握に努めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらい関係作りは出来ている。専門を要するような医療機関の紹介や周辺情報など支援に関する情報交換、協力関係を築けている。		

グループホームあさかわ・てっせんユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	お一人の看取りを経験した中から学んだことを今後活かして行きたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

グループホームあさかわ・てっせんユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	開所より現在までは、別の場所へ移り住むような利用者の状況はなかった。	○	今後別の場所への住み替えをするような利用者があれば、情報交換等を行い住み替えによるダメージを防ぐことに努めていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前で本人の誇りやプライバシーを損ねるような声かけや対応をせず目立たないような配慮をしている。記録等の個人情報については必要時のみその都度、御家族や本人の了解を得るなどの対応をしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人自身の事はもちろん日常の活動や行事等にしても本人自身で参加の決定が出来るよう説明等を行い無理強いすることのないように努めている。	○	日常の活動等には「やりたくないからやらない」を受け入れてしまうのではなく有する能力の維持のためにも本人自身から参加したい、やりたいという気持ちをどう引き出していくかを、職員の仕事としてとらえ職員一人ひとりが認識を持ち支援できるよう取り組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にし本人がやりたい事(編み物、塗り絵、散歩や買い物への外出、好きなテレビ番組を見る)など意向や希望に添った支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人からの訴えや家族からの希望があった時など本人と相談しながら近所の店や馴染みの店を利用できるよう努めている。		

グループホームあさかわ・てっせんユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>今後入居希望者の中に常時飲酒や喫煙の習慣があるかたがあれば本人、家族、かかりつけ医等との相談の上継続出来るよう支援していきたい。又時間に関係なく自身が自由に飲みたいものが飲めるような環境や状況作りを取り組んでいきたい。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>排泄の失敗を気にし水分の摂取量が少なくならないよう配慮するなど脱水にも十分注意していきたい。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

グループホームあさかわ・てっせんユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	人居時に本人や家族と相談をし本人のレベルに応じた状況でお金の管理をして頂いている。現在ほとんどの方のお金を事業所の方でお預かりをし管理しているが外出時や日常の買い物などがあるときは本人へ渡し支払い等見守りにて支払って頂く支援行っている。自己管理の出来る方には少額ではあるが居室にて管理して頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出している。近所の散歩から小旅行まで又個人から集団でなどその時々希望や様子で行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	温泉への小旅行、季節に合わせお花見(桜・チューリップ・ばら) やいちご狩り、七夕見学、紅葉狩りなどへの外出支援また、個別に本人が行きたいと思う遠方には家族に協力を依頼し実現に向けての支援を行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添い自由にやりとりが出来るよう支援出来ている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・知人・友人等気軽に訪ねて頂けるような雰囲気作りを心がけている。訪問時間も一応定めてあるが連絡して頂ければいつでも来所が可能。居室やフロアなど気兼ねなく過していただけるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はもちろん、過剰な薬物による拘束行為は行っていない。	○	月に2度行っているスタッフミーティング時等利用し常に意識を高める為啓発していきたい。

グループホームあさかわ・てっせんユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>新職員への研修参加の呼びかけを行い事業所にて定期的な訓練の実施に取り組んでいきたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>1回は消防署の協力を得て通報訓練や避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を実施したい。</p>

グループホームあさかわ・てっせんユニット


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時や心身の状態に変化があった時などは特に、起こり得るリスクについて家族と共に話し合い常に情報を交換しあえる体制をとっている。リスクを踏まえたうえで抑圧感のない暮らしを大切にしていることも理解して頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的にバイタルチェック等により体調管理を行っている。かかりつけ医との連携により、必要な利用者には毎日のバイタルチェック等も行っている。また日常の中で「いつもと違う」変化に気づけるよう努めている。気付いた際は速やかに情報を共有し対応に結び付けている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の情報から職員は個々が持つ疾病の把握とそれに伴う内服薬の目的や副作用、用法や用量についての理解をし服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。必要があれば家族やかかりつけ医に相談が出来る体制をとっている。	○	名前間違いや、飲み忘れ等のないよう職員の意識を日常の中で高めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来るだけ水分の摂取や散歩などを通し運動することなどの理解をして頂けるような働きかけを行っているが、本人の心身に負担のない範囲でかかりつけ医と相談し便秘薬の内服も並行しているが、そのときの状況を見ながら調節している。	○	食事のメニューにも工夫をし出来るだけ便秘解消に努めていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自歯の方には声かけや見守りを行い毎食後行って頂いている。義歯使用の方でも声かけや見守り必要に応じて職員の介助にて行い、義歯の洗浄も行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況に合わせた食事量で毎食摂って頂いている。体調に合わせ食欲のない方には食べたいものまた、おかゆや消化の良いものなどを工夫し用意させてもらっている。必要時は家族の了解のもとバランス栄養食なども使用し体力の維持を図っている。		

グループホームあさかわ・てっせんユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	ノロウイルス等の食中毒防止の為スタッフは手洗い、うがいの励行及び実施、食材の鮮度の確認使用食器の消毒等清潔保持に努めている。又利用者にも食前のうがい、調理参加や食器拭きの際の手洗いと状況により消毒を施し感染症の予防に努めている。	○	看護職員と連携を図り感染症予防マニュアルの作成に取り組みたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	感染症予防と合わせ調理器具・食器布巾手拭タオル等は消毒を行い天日干しや雨天時は乾燥機を使用し高温殺菌に努めている。又食材に関しても新鮮な品物を使用し賞味期限切れの物は使用しないよう職員間でも徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関内外にはイスやテーブル等、設置し天気の良い日はお茶なども頂けるようになっており、近隣の方が通りがかった際は挨拶をしたり足を止めて話をしたり、など親んでもらえるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	歩行に障害となるような物は利用者の行動範囲には置かず所々に置物や観葉植物等を配置し眺めたり触れたりして楽しめるよう工夫している。又利用者手作りの品物を貼ったり飾ったりして楽しんでもらっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにイス、庭にベンチテーブルを置き自由に過してもらっている。畳コーナーには炬燵やソファが置いてあり一人で過したり皆が寄れる場所となっている。		

グループホームあさかわ・てっせんユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時や家族の来訪時に本人の馴染みのもの等 を持参してもらい居室内の環境を出来るだけ本人と 相談し本人の過しやすいよう工夫してもらっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	晴天の日の掃除の際に布団干しを利用者と一緒 に行い換気も行っている。臭いの原因となる物を確 かめ除去し清潔に努めている。居室内は特に温度 調節に配慮しながら冷房、暖房を使用している。 特に冬場は居室とフローアールやトイレ、浴室との温 度差には注意をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて、手すりの設置や浴 室トイレ、廊下等の環境の見直し出来るよう努 めている。調理台は電気を使用するなど安全面も 考慮し調理台や洗面台の高さも利用者が自ら無理 なく使用できるよう工夫されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室入り口には表札の意味で本人と一緒に作った 目印を設置したり、居室の移動やテーブル席の移 動、下駄箱の位置の移動をさげ、わかる力を活か し混乱や失敗を防ぐよう努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	庭に季節の花を植えたり小さいながらも畑のス ペースを確保し時期のものを植え収穫時には食材 として頂くなど日常的に楽しむことが出来てい る。又玄関先やデッキにはイスやテーブルが設置 され日向ぼっこや涼んだり外の風景から季節を感 じたり、と活用出来ている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホームあさかわ・てっせんユニット

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者一人ひとりを大切に利用者本位を第一に考え、「その人らしさ」を維持していけるよう全職員が自己のレベルの向上の為日々、努力しております。